

長期脱ステロイド後に全身症状と喘息を経験した成人アトピーの経過 (37 歳女性)

症例 ID : 001-30-AT3 | 記録日 : 2017 年 9 月 18 日

1. 診断・治療前経過

患者さんは、20 歳頃から顔にアトピー症状が出て、民間療法、皮膚科でのステロイド、瀉血療法、玄米菜食など複数の方法を試した経過があります。ステロイドは約 10 年間、顔にも体にも塗布していました。

結婚・出産後にアトピーが一気に悪化し、32 歳時に松本医院とは別の医療機関で脱ステロイド治療を始めました。その後、数年間にわたり強いリバウンド症状が続きました。2017 年 2 月 14 日、3 回目のリバウンドの最中に松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	約 10 年間、顔と体にステロイド外用薬を使用しました。喘息発作時にステロイド吸入を使用した経過もあります。
製品名	不明。吸入ステロイドの製品名も不明です。
強度	不明。
使用期間	外用薬は約 10 年間。脱ステロイド開始後、喘息発作時に吸入を一時使用した経過があります。
中止時期	32 歳時に脱ステロイド治療を開始しました。2017 年 2 月の松本医院受診後、吸入ステロイドを使わない方針で経過しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後のステロイド使用は不明です。

3. 治療開始後の経過 (リバウンドを含む)

時期	治療開始から	経過
20 歳頃～30 歳頃	来院前	顔からアトピーを発症し、仕事の忙しさの中で皮膚科のステロイドを使用して症状をしのいでいました。
32 歳頃	脱ステロイド開始	別医療機関で脱ステロイドを開始しました。顔と体からリンパ液が出て、皮膚はずる剥けとなり、全身が大やけどのような状態でした。
開始後 1 年 7 か月ほど	長期ピーク	服を着ることも難しく、体をタオルと包帯で覆って布団に入る日々でした。顔はカボジ水痘様発疹症様の症状で目や口が開きにくいほど腫れ、膿が出る状態でした。
その後約 3 年	他院で継続	瀉血療法のため東京へ通院し、脱ステロイドを続けましたが、症状や生活負担が大きく、別の医療機関を探すことにしました。
2017 年 2 月 14 日	松本医院初診	全身の皮膚がぐちゃぐちゃで、皮膚がひきつれて椅子に座ることも難しい状態でした。喘息発作が毎晩数時間続き、ステロイド吸入を使う状況がありました。TARC 9800、IgE 4000、ACTH の乱れが確認されました。
初診後 2 週間	喘息の変化	漢方煎じ薬を開始後、昼夜の息苦しさに変化が出ました。
初診後 2 か月	喘息症状の軽減	吸入を使わなくなり、昼の息苦しさもなくなりました。
初診後 8 か月	経過時点	まだ治療途中でしたが、リンパ液は止まり、体の痛みは消え、夜眠れるようになり、外出できる体になりました。指先

の水疱、水仕事の痛みとかゆみ、顔左側のリンパの腫れと痛み、皮膚の手当ては残っていました。

4. ピーク時期

ピークは、脱ステロイド開始後の約1年7か月にわたる全身のリンパ液漏出、膿、激痛、包帯で覆う生活、顔の腫れが重なった時期です。松本医院受診直前にも、喘息発作が毎晩数時間続き、全身の皮膚がひきつれて椅子に座ることも難しい状態でした。

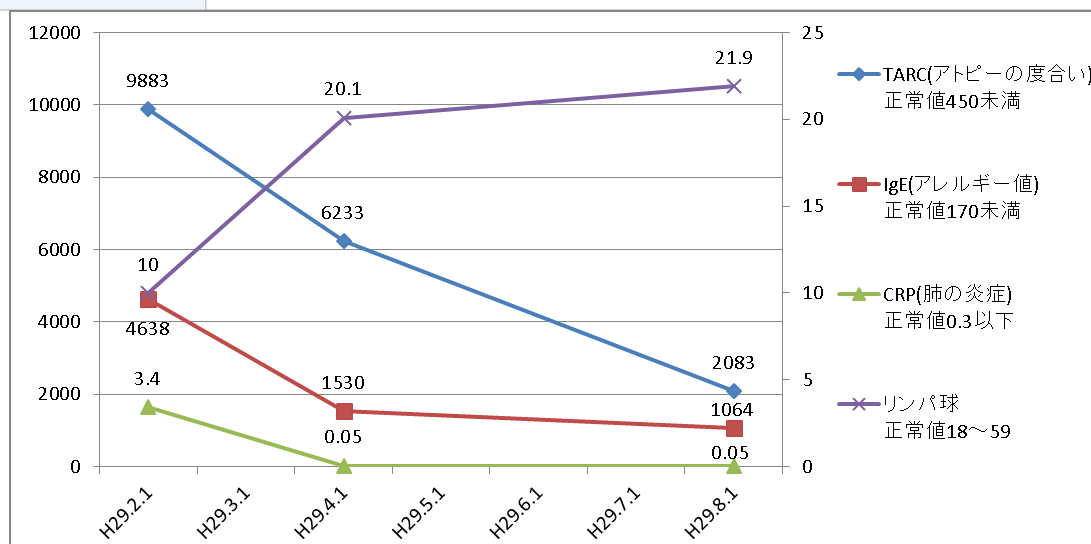
5. 困りごと

- ・全身の痛みとリンパ液漏出により、歩行や着替え、睡眠など日常動作に大きな支障がありました。
- ・子どもを抱きしめることも難しい時期があり、家族の支援を受けながら過ごしました。
- ・喘息発作により呼吸が苦しく、ステロイド吸入を避けることへの不安もありました。
- ・治療が長期に及び、時間的・経済的・精神的な負担が大きい経過でした。

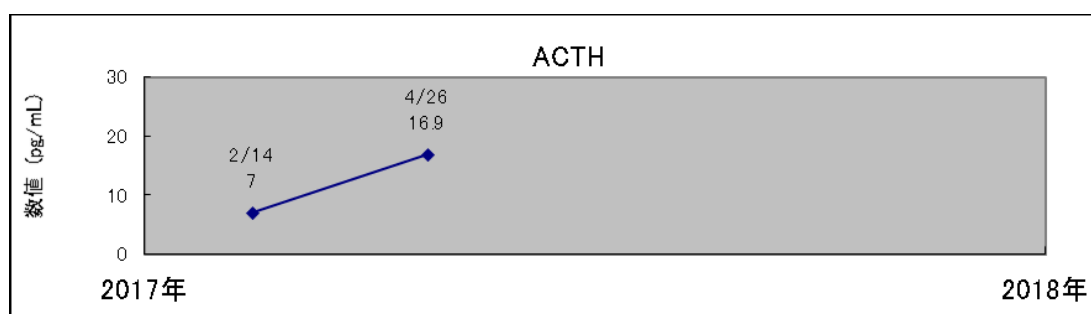
6. 検査値・写真・画像

※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

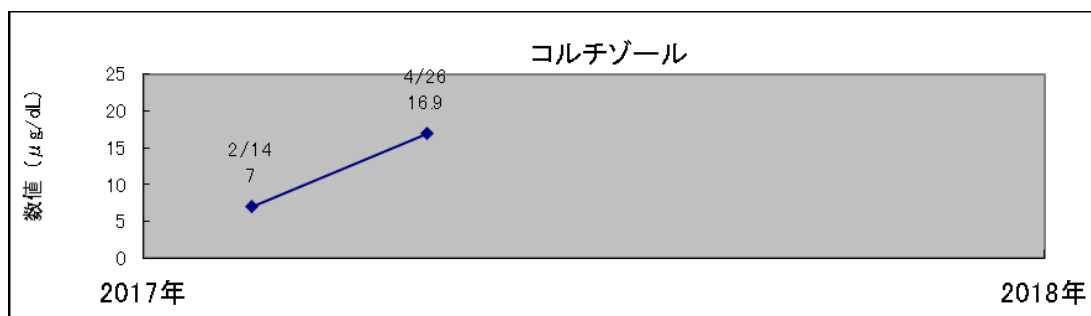
項目	内容
TARC	2017年2月の初診時に9800。
IgE	2017年2月の初診時に4000。
ACTH・副腎皮質ホルモン	初診時に乱れがあると説明された経過があります。
画像資料	ACTH、コルチゾール、LDH、VZV、HSV、好酸球、IgE/TARCなどの推移グラフが添付されています。



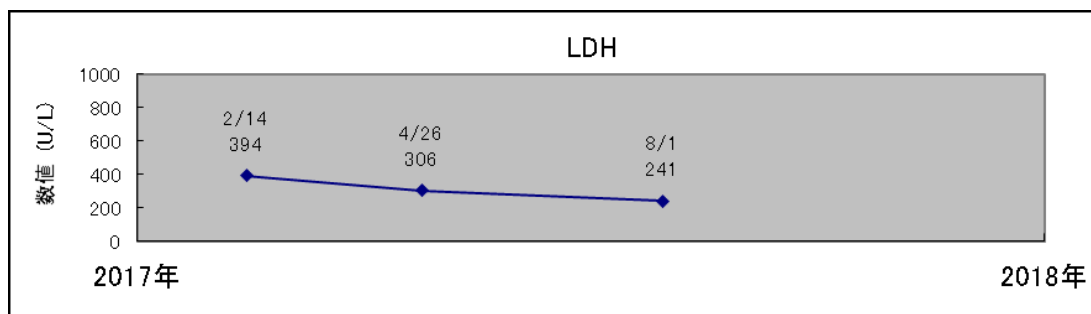
検査資料1: IgE、TARC、ACTHなどの推移をまとめたグラフ。



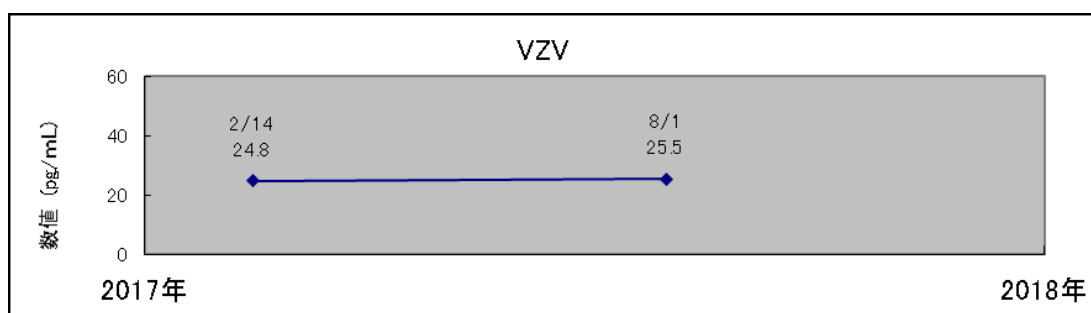
検査資料 2 : ACTH の推移。



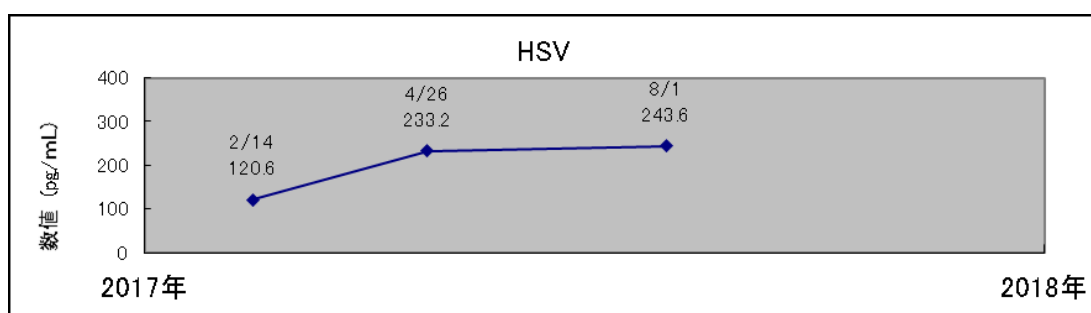
検査資料 3 : コルチゾールの推移。



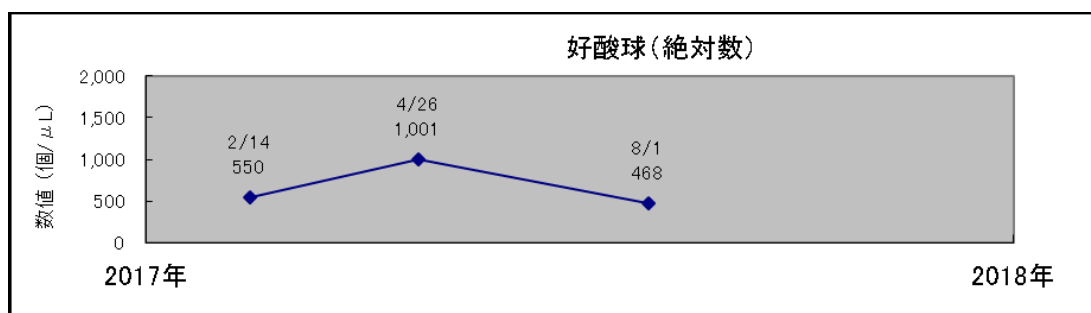
検査資料 4 : LDH の推移。



検査資料 5 : VZV の推移。



検査資料 6 : HSV の推移。



検査資料 7：好酸球の推移。

7. 経過のまとめ

2017 年 2 月の松本医院受診後、2 週間で息苦しさに変化が出て、2 か月後には吸入を使わず昼の息苦しさもない状態となりました。

8 か月時点では、まだ治療途中で指先や顔左側などに症状は残っていましたが、リンパ液は止まり、体の痛みは消え、夜眠れるようになり、外出できる状態まで生活範囲が広がりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。